
♪どれみふあそったくん♪

～子どものための

アウトリーチ～

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称、目的など

(1)名称

♪どれみふあそったくん♪

～子どものためのアウトリーチ～

(2)目的

地方の小学校、及び福祉施設の子どものなど、普段生の演奏を聞く機会の少ないと思われる子ども達に向けて出張で演奏会を行い、子ども達にとってよき音楽体験となる機会を提供する。

ただ聴くだけの鑑賞会にとどまらず、楽器のしくみや音楽の歴史について知るなど学習の面を持ち、生涯学習としての視点を意識し音楽に関わることのできる場面を設けるなど、よき音楽体験として子どもたちに変化をもたらす機会となり得るよう留意する。

また、それぞれのニーズにどう応じられるか、主催する側の意向をどこまで実施できたか、以上の3つの視点を持って活動を行い、実践を通して報告する。

(3)方法

- ①実施先とアポイントメントを取る。現場のニーズを把握する。
- ②現場のニーズに応じた活動や演奏会の企画案を作成し、実施に向けた準備をする。
- ③現場の方に企画内容を確認して頂き、企画案を修正し改善案を作成する。
- ④活動実施後、現場のニーズに答えられているか、学習の面はあるか、参加型であるかという3つの

視点から分析を行う。

2. 代表者および構成員

・代表者

鈴木淳之介	音楽領域専攻	2回生
杉本瑞樹	音楽領域専攻	1回生

・構成員（運営・演奏）

泉谷昂毅	音楽領域専攻	4回生
大橋茉奈	音楽領域専攻	4回生
鶴丸優月	音楽領域専攻	3回生
植道 栞	音楽領域専攻	3回生
井上愛織	音楽領域専攻	2回生
梅原 瞭	音楽領域専攻	2回生
奥わかば	音楽領域専攻	2回生
小國莉子	音楽領域専攻	2回生
角谷泉実	音楽領域専攻	2回生
喜多美月	音楽領域専攻	2回生
樹山仁実	音楽領域専攻	2回生
小嶋泰地	音楽領域専攻	2回生
布上大雅	音楽領域専攻	2回生
濱田虹音	音楽領域専攻	2回生
東 菜子	音楽領域専攻	2回生
村上智美	音楽領域専攻	2回生
村中七虹	音楽領域専攻	2回生
泉川真緒	音楽領域専攻	1回生
植田亜由美	音楽領域専攻	1回生
川原結満	音楽領域専攻	1回生
小島美優羽	音楽領域専攻	1回生
坂口瑛花	音楽領域専攻	1回生
佐久間花菜	音楽領域専攻	1回生
佐藤舞	音楽領域専攻	1回生
柴田遥華	音楽領域専攻	1回生
多田初穂	音楽領域専攻	1回生
角田優愛	音楽領域専攻	1回生
中谷優友	音楽領域専攻	1回生
船井徳佳	音楽領域専攻	1回生
村田若菜	音楽領域専攻	1回生

3. 助言教員

田邊織恵教員（音楽科）

4. アウトリーチについて

Out (外へ) reach (手を差し出す) という意味の英語である。元々社会福祉の分野で行われる地域社会への奉仕活動や教育普及活動などの意味で用いられていた。現在では、現場へ出向いて活動する「訪問○○」「出前○○」といった受け手のニーズに合わせた取り組みも指す。(1)

音楽分野でのアウトリーチ活動とは、音楽家や音楽団体などが音楽に普段触れる機会の少ない人々に働きかけ、音楽を普及することであり、さらに提供者と享受者が対等な立場で一緒に楽しむという双方向的なスタンスが特徴である。

第2章 内容や実施経過など

(4月) 活動参加アンケート実施

(5月) 構成員全員で今年度の活動計画会議

(7月) 京都教育大学附属特別支援学校との打ち合わせ、訪問演奏

(8月) 京都教育大学幼児教育専攻との打ち合わせ

(10月) 京都教育大学幼児教育専攻主催「うたとおはなしの会」にて演奏

(11月) 藤森神社との打ち合わせ、訪問演奏

(11月～12月) 京都市立洛央小学校との打ち合わせ、訪問演奏

第3章 結果や成果など

1. 京都教育大学附属特別支援学校「たなばたコンサート」

(1) 実施までの流れ

本学の音楽科教員と附属特別支援学校とのつながりがあり実施に結びついた。まだコロナ禍であるため音楽会を開催することが難しく、子どもたちに生の音楽を聴かせてあげたいとのことだった。京都教育大学でお会いする機会がある際に、曲目や楽器編成を決めるなどの打ち合わせを行い、実施する1週間前に附属特別支援学校の担当の先生方に確認していただきならりハーサルを行った。

(2) 実施内容

①日時 2022年7月7日(水)
11時～11時30分

②対象 支援学校初等部(約15名)

③演奏内容

1. J.シュトラウス1世作曲《ラデツキー行進曲》
／演奏形態・合奏(ヴァイオリン・フルート・クラリネット・アルトサックス・トロンボーン・ファゴット・ピアノ・ドラム)
2. カミーユ・サン＝サーンス作曲《動物の謝肉祭》より、ビーバー、白鳥、象、水族館／演奏形態・アンサンブル(クラリネット・アルトサックス、ヴァイオリン、ファゴット、ピアノ)
3. アメリカ民謡《森のくまさん》／演奏形態・木琴8手
4. 《リズム遊び》／演奏形態・打楽器
5. 権藤花代・林柳波作詞、下総暁一作曲《七夕さま》
／演奏形態・アンサンブル(リコーダー・ビブラフォン・ピアノ・歌)
6. LISA作曲《紅蓮華》／演奏形態・合奏(クラリネット・アルトサックス・ヴァイオリン・ファゴット・ピアノ)

④演奏者

鈴木淳之介・布上大雅・植道 栞・泉谷昂毅・小國莉子・角谷泉実・濱田虹音・喜多美月

⑤展開

1枚目,楽器クイズ 2枚目,リズム遊び



2. 京都教育大学幼児教育専攻主催「うたとおはなしの会」

(1) 実施までの流れ

本学の幼児教育専攻教員から幼児教育専攻が主催する幼児向けの「うたとおはなしの会」で、♪どれみふぁそったくん♪の音楽コーナーをしてほしいという依頼をいただいた。幼児とその保護者に向けて良い音楽体験となる演奏をしてほしいということだった。音楽会が初めての幼児に楽しんでもらえるように、選曲や楽器の編成を考え、全体のプログラムや司会が1つの物語となるように工夫をした。

(2) 実施内容

①日時 2022年10月1日(日)

9時30分～12時

②対象 地域の幼児とその保護者(約30名)

③演奏内容

1. 栗原 正己作曲《ピタゴラスイッチ》／演奏形態・アンサンブル(ヴァイオリン・フルート・クラリネット)
2. ドイツ民謡《森の音楽家》／演奏形態・(アンサンブルヴァイオリン・フルート・クラリネット・ピアノ・ドラム・歌)
3. J.シュトラウス1世作曲《ラデツキー行進曲》／演奏形態・合奏(ヴァイオリン・クラリネット・ピアノ・トロンボーン・ドラム)
4. アメリカ民謡《森のくまさん》／演奏形態・木琴8手
5. 星野源作曲《ドラえもん》／演奏形態・合奏(ヴァイオリン・フルート・クラリネット・ピアノ・トロンボーン・カホン)
6. 宮崎駿作詞、久石譲作曲・編曲《さんぽ》／演奏形態・アンサンブル(ヴァイオリン・フルート・クラリネット・トロンボーン)

④演奏者

鈴木淳之介・泉川真緒・村田若菜・柴田遥華・角田優愛・杉本瑞樹

⑤展開

1枚目、ピタゴラスイッチ

2枚目、ラデツキー行進曲



3. 藤森神社「こども祭り」

本プロジェクトの構成員の父親が委員の企画で依頼をいただいた。地域のお祭りとして子どもたちなどたくさんの方々に音楽を楽しんでほしいという目的から、子ども向けからその保護者、地域のご老人など様々な年齢の方が楽しんでいただけるような曲をプログラムに入れるなどの工夫を行った。

(2) 実施内容

①日時 2022年11月3日(土)

11時～11時30分

②対象 地域の方、子ども(約50名)

③演奏内容

1. 《スネアソロ》／演奏形態・スネア
2. 源田俊一郎作曲《ふるさとの四季》／演奏形態・混声4部合唱
3. フランツ・レハール作曲《メリー・ウィドウ・ワルツ》／演奏形態・2重唱(ソプラノ・バリトン)
4. 久石譲作曲《海に見える街》／演奏形態・ヴァイオリンソロ
5. アラン・メンケン作曲《輝く未来》／演奏形態・2重唱(アルト・テノール)

④演奏者

鈴木淳之介・杉本瑞樹・梅原 瞭・濱田虹音・植道
栞・谷口茉鈴

⑤展開

1 枚目,ふるさとの四季



4. 京都市立洛央小学校「音楽鑑賞会」

(1) 実施までの流れ

本学の音楽領域専攻卒業生で、洛央小学校教員として勤務しておられる小学校から依頼をいただいた。コロナの影響で小学校向けの演奏会などが開催されていないため、子どもたちに生の音楽を聴く体験をしてほしいとのことだった。5、6年生を対象にした演奏会で、小学校の時間割で5～6限を使った約90分の演奏会であった。コロナ対策として、5年生と6年生を分けた計2回の演奏会を行った。2回打ち合わせをし（Zoomと洛央小学校にて）、比較的大きい編成の活動であるため、大型楽器はトラックを借りて運搬するなど要望に応えられるように準備をした。また小学校高学年であるため、学習の面や演奏のクオリティなどもレベルを追求し、プログラムの内容や流れ、司会やパワーポイントにも力をいれた。

(2) 実施内容

①日時 2022年11月30日（水）（6年生）
12月7日（水）（5年生）

両日13時40分～15時15分

②対象 小学校5年生、6年生（計約200人）

③演奏内容

-----第1部 器楽編-----

1. J.シュトラウス1世作曲《ラデツキー行進曲》
／演奏形態・合奏（ヴァイオリン・フルート・クラリネット・アルトサックス・トロンボーン・ファゴット・ピアノ・ドラム）
2. 久石譲作曲《海の見える街》／演奏形態・アンサ

ンブル（クラリネット・ファゴット）

3. モンティ作曲《チャルダッシュ》／演奏形態・ヴァイオリンソロ
4. ジョブリン作曲《エンターテイナー》／演奏形態・アンサンブル（アルトサックス・トロンボーン）
5. チャイコフスキー《葦笛の踊り》／演奏形態・アンサンブル（フルート・ピアノ）
6. アメリカ民謡《アルプス一万尺》／演奏形態・木琴8手
7. チャイコフスキー作曲《くるみ割り人形》／演奏形態・アンサンブル（鍵盤ハーモニカ・リコーダー・ピアノ）
8. グリーク作曲《山の魔王の宮殿にて》／演奏形態・合奏（ヴァイオリン・フルート・クラリネット・アルトサックス・トロンボーン・ファゴット・ピアノ・ティンパニ・パーカッション）

-----第2部 声楽編-----

9. 源田俊一郎作曲《ふるさとの四季》／演奏形態・混声4部合唱
10. ドナウディ作曲《かぎりなく優美な絵姿》／演奏形態・ソプラノソロ
11. 北原白秋作詞、山田耕筰作曲《この道》／演奏形態・アルトソロ
12. ナポリ民謡《オー・ソレ・ミオ》／演奏形態・テノールソロ
13. モーツァルト作曲、オペラ「フィガロの結婚」より《もう飛ぶまいぞ、この蝶々》／演奏形態・バリトンソロ
14. モーツァルト作曲、オペラ「魔笛」より《パパパの2重唱》／演奏形態・2重唱（ソプラノ・バリトン）
15. アラン・メンケン作曲《輝く未来》／演奏形態・2重唱（アルト・テノール）
16. 村井邦彦作曲《翼をください》／演奏形態・合唱・合奏（ヴァイオリン・フルート・クラリネット・アルトサックス・トロンボーン・ファゴット・ピアノ・パーカッション）
17. LISA 作曲《紅蓮華》／演奏形態・合奏（ヴァイオリン・フルート・クラリネット・アルトサックス・トロンボーン・ファゴット・ピアノ・ドラム）

④ 演奏者

鈴木淳之介・泉谷昂毅・植道 栞・濱田虹音・布上大雅・梅原 瞭・小國莉子・川原結満・杉本瑞樹・植田亜由美・小島美優羽・坂口瑛花・佐藤 舞・角田優愛・船井徳佳

⑤ 展開

- 1、2 枚目,指揮者体験 山の魔王の宮殿にて
- 3 枚目,ふるさとの四季



第4章 まとめと反省、今後の展望など

(1) 成果

これまで3つの視点を持って活動を行ってきた。

視点の1つ目に「現場のニーズに応えられているか」があった。今年度は幼児から小学校高学年、特別支援学校と幅広いニーズに応える必要があり、基本的には打ち合わせの際にそれぞれの担当の方と話し合い各学年に応じた内容となるよう工夫した。そして今年度は視覚情報としてパワーポイントを有効的に活用することに力を入れた。幼児向けの演奏会では「森の音楽家」をテーマに、全員で動物の被り物などをし、プログラム全体を通して森の動物が演奏しているようにした。これにより幼児に楽しく音楽を聴いてもらえるように努めた。特別支援学校では分かりやすく伝えることに重点を置き、パワーポイントでイラストをいれたり、字をひらがなにしたり、読みやすくしたり、曲の雰囲気を表す画像を写した(資料①)。また、児童の集中力を切らさないために参加型の体験を主とし、曲を短く編曲するなど工夫をした。小学校高学年を対象とした場合には授業の時間を使った音楽鑑賞会であるため、学びが多くなるようにプログラムを考えた。具体的には、声楽と器楽の両方を伝えられるように前後半で分け、鍵盤ハーモニカやリコーダ、木琴など学校にある楽器を使った演奏をして児童がより興味をもって聴いてくれるようにした。また、教科書に掲載されている曲を、実際に生の音楽で聴くという経験を重視できたと思う。クラシックを扱うばかりではなく、流行の曲を取り入れ子どもが楽器に対する興味を抱いてくれるようにした。このように演奏の対象者を意識してプログラムや司会、パワーポイントを考え、現場のニーズに応えられたと思う。

2つ目の視点「学習の面はあったか」については、教科書に出ている曲を取り入れ、生演奏ならではの本格的な音楽経験を提供することができた。加えて、楽器クイズなどを通して、各楽器の特徴や音色などを学べるコーナーを設けた。小学校高学年を対象とした演奏会では、指揮者体験や合唱とそのパート紹介などを取り入れることで学習の面を持った活動を

企画、実施することができた。

視点の3つ目である「参加型であったか」については、「ラデツキー行進曲」での手拍子、楽器の特徴や種類などを問題にして子どもたちに答えてもらう楽器クイズ、打楽器を伴うリズム遊び、実際に指揮を振ってもらい指揮者体験など様々な参加型の企画ができたと思う。児童の感想文にも主に参加型のプログラムが好評であった。

資料①

サン・サンス
「どうぶつ の しゃにくさい」 ?

どんなどうぶつをあらわしたきよかな??

? ?

①ヴァイオリン



どっちの「とり」がぴったりあうかな?



はと



はくちょう

5 「たなばたメドレー」



(2) 課題

次年度に向けての課題としては2点ある。1点目は、コロナ禍のためにプログラムの変更や本番当日メンバー欠席があった点である。コロナの流行が落ち着いている時を予測して本番の日程を考え、マスクや距離をとるなど対策をしながらの演奏会であった。本番当日の歌唱時のマスクの取り扱いについては、先方との確認不足があり、先方との説明、詳細な確認など確実にしていきたい。

2点目は、広報が出来ていないことである。今までの依頼は、基本的に誰かの身内や関係者からいただいていた。しかし、外部などから依頼があった際に私たちの活動を簡潔に紹介できるチラシのような広報の必要性を強く感じた。また、演奏会後にその参加者や先生方からも、生の音楽を子どもたちに届けたいと思っている声をたくさん聞き、広く認知することとそのための連絡手段があると実感した。これらからチラシやHPなどの広報の作成を早急に行わなければならないと考えた。以上の点を踏まえ、今後の活動に活かして行く。

<参考・引用文献>

- (1) 松本 菜摘,河添 達也 (2015)「小学校音楽科における「教育プロジェクト型アウトリーチ」の授業開発研究」『島根大学教育臨床総合研究』島根大学教育学部附属教育臨床総合研究センター, pp.181-190
- (2) 林睦(2009)「音楽のアウトリーチ活動に関する一考察—日本における導入 10 年と今後の課題」『音楽教育学の未来』音楽之友社, pp.280-